



Title	Reflections and Practical Insights on Communication and Care for Patients and Families in Japanese Intensive Care Units During COVID-19: A Semi-Structured Interview Study of Healthcare Providers
Author(s)	制野, 勇介
Citation	大阪大学, 2026, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/105682
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed をご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

論文内容の要旨

Synopsis of Thesis

氏 名 Name	制野 勇介
論文題名 Title	Reflections and Practical Insights on Communication and Care for Patients and Families in Japanese Intensive Care Units During COVID-19: A Semi-Structured Interview Study of Healthcare Providers (COVID-19パンデミック下における日本の集中治療室での患者・家族へのコミュニケーションとケアに関する考察と実践的知見：医療従事者への半構造化インタビュー研究)
〔目 的(Objective)〕 集中治療室（ICU）において質の高い医療の提供には、医療従事者、患者、患者家族の間での効果的なコミュニケーションが不可欠である。しかし、COVID-19パンデミックにより感染対策が強化され、厳格な面会制限が導入されたことで、ICUの医療は大きな影響を受けた。その結果、患者および患者家族とのコミュニケーションや、家族中心ケア（family centered care：FCC）の実践が著しく制限され、患者・家族への支援が困難となった。またそのことで、医療従事者のケア実践や心理的負担の増加にも大きな影響が生じたことが知られている。 本研究は、COVID-19パンデミック下のICUにおいて、医療従事者が患者および患者家族とのコミュニケーションとケアにおいて直面した困難とその対応を明らかにするとともに、これらの経験がICUの医療ケアの実践にもたらした変化や学びを検討することを目的とした。 〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕 方法：2022年10月から2023年3月にかけて、ICUで勤務する医師および看護師16名を対象に半構造化インタビューを実施した。得られた逐語録データをテーマ分析により解析し、パンデミック下におけるコミュニケーションおよびケアの経験を解析した。 結果：テーマ分析の結果、3つのカテゴリーにまたがる9つのテーマが抽出された。 第1のカテゴリー「医療従事者が直面した課題と適応」では、「①感染対策を行うことで苦労や問題が生じた」「②医療従事者はさまざまな感情を抱えながら診療やケアにあたった」「③COVID診療を円滑に行うための取り組みを進めた」「④多職種連携の重要性を認識した」「⑤COVID下で特有の状況に直面した」の5つのテーマが抽出された。厳格な感染対策により精神的・実務的困難が生じる一方で、ケアの質を維持するための多様な工夫や適応的対応が行われていた。また、パンデミックを契機として多職種連携の重要性が再認識され、意思決定の共有やケアの継続性を確保するため、多職種カンファレンスの開催や平時以上の緊密な協働が進められていた。 第2のカテゴリー「患者・患者家族・医療従事者の関わり」では、「⑥家族対応の困難を実感し対策を講じた」「⑦患者と家族の繋がりを維持するためになるべく面会できるように工夫した」「⑧患者・患者家族対応において看護師が大きな役割を果たした」の3つのテーマが抽出された。面会制限により家族の関与が大きく制限された一方、遠隔面会の導入などの介入が、患者と患者家族の関係維持や家族への精神的支援に重要な役割を果たしていた。 第3のカテゴリー「パンデミックの経験から得た学び」では、「⑨パンデミックを経てより良い医療・ケアに繋がった」というテーマが抽出され、これらの経験を通じてICUにおける診療実践の改善、多職種連携および患者・家族中心のケアの重要性が再確認されたことが分かった。 〔総 括(Conclusion)〕 COVID-19パンデミック下において、感染対策の強化や厳格な面会制限は、ICUにおけるコミュニケーションとケアに大きな困難をもたらした。本研究は、こうした制約の中で医療従事者が直面した課題と対応を9つのテーマとして整理し、特に感染対策と面会制限が患者・家族支援を困難にした一方で、多職種連携の強化と、患者・家族対応における看護師の重要な役割が改めて認識されたことを明らかにした。これらの経験は、効果的なコミュニケーションの実践、柔軟な面会方針の整備、ならびに患者・家族中心のケアを推進するうえで重要な示唆を与えるものである。さらに、本研究で得られた知見は、将来の感染症危機への対応にとどまらず、平時のICU診療においても、ICUの医療・ケアの質の向上に寄与しうると考えられる。	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 制野 勇介				
論文審査担当者	(職)	氏 名		
	主 査	大阪大学教授	加藤 和人	署名
	副 査	大阪大学教授	織田 順	署名
	副 査	大阪大学教授	吉田 伊史	署名

論文審査の結果の要旨

本研究は、COVID-19パンデミック下における集中治療室（ICU）の医療従事者が直面したコミュニケーションとケアの課題に焦点を当て、その経験がICU実践に与えた影響を明らかにしたものである。

2022年10月から2023年3月にかけて、医師および看護師16名に半構造化インタビューを実施し、テーマ分析を行った結果、3つのカテゴリーにまたがる9つのテーマが抽出された。(1)「医療従事者が直面した課題と適応」では、厳格な感染対策による困難に対し、効果的なケアを維持するための多様な工夫がみられた。(2)「患者・患者家族・医療従事者の関わり」では、面会制限による家族の関与の制約に対し、リモート面会を導入や、看護師の役割が見直され、家族支援を積極的に促進していた。(3)「パンデミックから得られた教訓」では、多職種連携と家族中心ケアの重要性が再確認された。

本研究によりCOVID-19パンデミックから得られた経験は、将来のパンデミック時だけでなく、日常的なICUケアにおいて、コミュニケーション実践の改善、柔軟な面会方針の支援、患者・家族中心のアプローチの促進に向けた貴重な知見を提供し、ICUの医療ケアの質の向上に寄与しうると学位に値すると考える。